

IAAL

Institute for Assistance of Academic Libraries

ニュースレター

アイアールニュースレター

【特集】

職員の図書館力を
高めるには

APR. 2014

No.14



「総合目録」を思う

NPO法人 大学図書館支援機構 理事長 小西 和信

戦後の公共図書館の活動をリードされてきた伊藤昭治氏の古希記念論文集として成った『図書館人としての誇りと信念!』（出版ニュース社、2004）に、氏自身の「提言 まだ言いつづけなければならないこと」という一文があります。数年前に読んだので、肝心なことは覚えていないのですが、長らく図書館界にあった方が図書館の行く末を案じて助言や提言を残すということに心が動かされたのです。筆者も野球で言えばとくに終盤の7、8回を迎えているので、他人事ではないという気がいたしました。とはいえ、最終回まではちょっと間があるようですので「中締め」程度にしておきます。

筆者は、30代のはじめに特殊資料を整理することがあり、『全米総合目録（ナショナルユニオンカタログ）』の世話になりました。モスグリーンの一巻に及ぶこの壮大な目録は、当時まだ「N」くらいまでしか出ておりませんでした。が、「総合目録」の凄さに感動したのはこの時が最初でした。その後レファレンスや相互貸借の業務に就き、『新収洋書総合目録』（国立国会図書館）や『学術雑誌総合目録』（文部省）、諸外国の「総合目録」を頻りに使用しました。利用者の求めに応じて、草の根を分けても資料を探し出そうと血気に逸っていた若い図書館員にとって「総合目録」（ほかの書誌類もそうですが）ほど素晴らしい宝物はありませんでした。後年、『学術雑誌総合目録』（欧文編1988年版）の編集やNACSIS-CATの開発運用に携わることになりましたが、「総合目録」の一ファン（利用者）から作成者側にまわる奇縁に苦笑を禁じませんでした。

さてNACSIS-CATですが、目録システム登場（1984年）から今年は30年目を迎えています。全国の大学図書館等の蔵書1億冊以上をネット上のCiNii Booksを通してたちどころに調べることができます。「総合目録」を構想した人たちの思いは実現したかのように見えます。学術情報システム構想の中核機関として設立され

た学術情報センター（現国立情報学研究所）の初代所長の猪瀬博先生は、日本の学術文献がどこに所在するか分からないようでは文化国家とはいえないという趣旨の発言をされていました。現在の状態は、先生のお眼鏡にかなうのでしょうか？最近の図書館情報学研究者の調査分析によると、NACSIS-CATへの入力率は低下の一途をたどっているそうです。網羅性などとても期待できそうにないのです。学部図書室等の専門文献を入力すると相互貸借に応じなければならず、自館のOPACには入れてもNACSIS-CATには報告しない方針の大学図書館もあるそうです。NACSIS-CATの書誌ユーティリティ機能は使うけれど、「総合目録」を作ることには関心を寄せないというわけです。どこも入れていないからこそ我が図書館は入れようという図書館員なら普通に抱いているはずの奉仕精神はいったいどこに消えたのでしょうか。

OPACの横断検索や『カーリル』のような優れた蔵書検索システムが存在する今日、一つのデータベースに統合されたNACSIS-CATのような「総合目録」にこだわること自体、時代錯誤だと一笑に付されそうですが、一つのデータベースとしての機能、利便性は間違いなくあります。それと大学図書館総体が学術文献を必要とするすべての利用者に対して協力して作り上げることの意義もあります。自分の組織の都合や利益のみで割り切っていく今日の風潮に、老カタログは一抔の淋しさを覚えます。あと一言付け加えると、著者名典拠リンクの件です。NACSIS-CATデータベースは、当初、著者名典拠レコードと書誌レコードのリンクを必須としておりましたが、ある事情があって途中から任意化され、おそらく30%以上の未リンクレコードが放置されています。一つのデータベースである特徴を活かすためにも、100%のリンク形成を行わなければなりません。「中締め」として、これだけは伝えておきたいと思いました。

『IAAL大学図書館業務実務能力 認定試験問題集 2014年版』 の刊行によせて

筑波大学図書館情報メディア系
IAAL認定試験運営委員会委員

大庭 一郎

NPO法人大学図書館支援機構(略称:IAAL)は、2009年から、年2回、IAAL大学図書館業務実務能力認定試験(略称:IAAL認定試験)を実施してきました。本稿では、『IAAL大学図書館業務実務能力認定試験問題集』の刊行を踏まえて、IAAL認定試験の概要、合格基準、勉強方法について記します。

1. IAAL認定試験の概要

IAAL認定試験は、大学図書館で働く専任職員と非専任職員に、大学図書館業務の実務能力に関する自己研鑽と継続学習の目標・機会を提供することを目的としています。

現代の大学図書館業務には、多様な業務が含まれており、個々の業務の担当職員に必要な専門的知識と経験は異なっています。そこで、IAALは、日本の大学図書館で標準的に活用されている書誌ユーティリティ(NIIのNACSIS-CAT/ILL)を対象として、試験問題を開発しました。IAAL認定試験には、「総合目録」と「情報サービス」の2系列があります。2014年3月現在、「総合目録」系には「図書初級」「図書中級」「雑誌初級」「雑誌中級」の4試験、「情報サービス」系は「文献提供」の試験があります。「総合目録-雑誌中級」は、2014年4月27日(日)に、第1回を実施する予定です。

2. IAAL問題集の出版

2009年以降、IAAL認定試験を実施する度に、試験問題集の出版を希望する声が、IAALに多数寄せられました。そこで、2012年4月に、『IAAL大学図書館業務実務能力認定試験問題集』(略称:IAAL問題集)が、IAALの出版物として初めて刊行されました。この2012年

版のIAAL問題集では、「総合目録-図書初級」の第1回から第4回までの出題(合計400題)、および、「総合目録-雑誌初級」の第1回から第4回までの出題(合計400題)を踏まえて、各100題の試験問題を選定・解説しました。

2012年版の残部が少なくなった頃に、「情報サービス-文献提供」の試験問題も発行して欲しいという要望が、IAALに寄せられました。そこで、今回は2012年版の増刷でなく、2012年版に「情報サービス-文献提供」第1回の100問中46題の問題・解説を加えて、2013年10月に、2014年版を発行しました。今回の出版に際しては、図書館情報学分野の教科書・専門書で実績のある樹村房にお世話になりました。

IAAL問題集は、以下の5種類の活用方法を想定して、編集・出版しました。

- ① NACSIS-CAT/ILLを用いた総合目録業務・図書館相互利用業務の自己研鑽の教材
- ② NACSIS-CAT/ILLを用いた総合目録業務・図書館相互利用業務の研修教材
- ③ IAAL認定試験の受験対策の教材
- ④ IAAL認定試験の受験後の復習教材
- ⑤ 大学図書館職員を目指す学生・社会人の教材

IAAL問題集の読者の皆様は、IAAL認定試験の受験を目指して、この問題集をご覧になる方が多いと思います。その結果、IAAL認定試験の受験対策として、主に模擬問題を利用されるかも知れません。しかし、2014年版のIAAL問題集には、第1章「IAAL大学図書館業務実務能力認定試験の設計思想と概要」を掲載しています。この章には、IAAL認定試験の実施の背景、IAAL認定試験の設計思想、IAAL問題集の活用方法、関連資料

が記されています。IAAL 認定試験に取り組む際は、第1章を精読すると、その後の学習が進めやすくなります。

3. IAAL 認定試験の合格基準 (判定方法)

試験問題を作成する場合、試験の目的(目標)に応じて、多様な出題形式が選択できます。IAALは、各種の試験方式を検討した上で、自動車の普通免許の学科試験の方式をIAAL認定試験に採用しました。普通免許の学科試験では、多数の問題(100題)を出題し、それらに短時間(50分)で回答させ、合格基準を高く設定(90%以上)しています。これによって、短時間に(1問当たり30秒で)、各問に対する瞬時の正確な判断を求め、推測・推量による回答を極力減らす工夫がなされています。

そこで、IAAL認定試験「総合目録－図書初級」「総合目録－雑誌初級」「情報サービス－文献提供」の3試験は、正誤式の筆記試験(マークシート方式)を採用し、出題問題数100問、試験時間50分、合格基準80パーセント以上(正解80問以上)で実施しました。一方、IAAL認定試験「総合目録－図書中級」「総合目録－雑誌中級」では、多肢選択式の筆記試験(マークシート方式)を採用し、出題問題数150問、試験時間90分、合格基準80パーセント以上(正解120問以上)で実施しています。

IAAL認定試験における大学図書館業務の実務能力の判定方法については、各試験の合格点を設定し合格判定をするのか(合格点設定方式)、TOEICやTOEFLのように点数(スコア)を提示するのか(点数提示方式)について、様々な議論がありました。合格点設定方式は、合格点を境として1点違いで合格が分かれるため、受験者の中で悔しい思いをする方が生じます。新試験の円滑な実施には、点数提示方式が適切ではないか、という意見もありました。

喧々譁々の議論を経て、IAAL認定試験の受験者の自己研鑽と継続学習の目標を明確にするために、個々の図書館業務を4年以上経験した者が合格できる点数(80点と120点)を定め、合格基準80パーセント以上で合格判定する方式が、採用されました。

2009年5月のIAAL認定試験「総合目録－図書初級」第1回は、IAAL問題集の刊行前の時期でしたが、

NACSIS-CATの経験年数4年以上の受験者(99名)の中で、78人(79%)が合格しました。

4. IAAL 認定試験の勉強方法

IAAL認定試験は、職員採用の競争試験のように、少数の合格者を選考する試験ではありません。しかし、受験者が、個々の大学図書館業務に必要な実務能力に達していない場合は、不合格になります。

NACSIS-CATを用いた図書の目録業務に4年以上従事している方が、「総合目録－図書初級」を受験する場合を考えてみましょう。大学図書館の目録業務は、各館が受入・購入する資料の種類と分量によって大きく異なります。極端な例ですが、NACSIS-CATの目録業務に4年以上従事していても、ISBNがついた和書のみ担当し、ISBNでNACSIS-CATを検索・所蔵登録するだけでは、多様な業務経験が得られません。「図書初級」では、総合目録の概要、各レコードの特徴、検索の仕組みを理解し、和洋図書の検索と書誌同定の判断ができるかどうかを判定し、目録規則の基礎的な知識も確認しています。受験者には、目録業務に必要な形式知と暗黙知を駆使しながら、「図書初級」の100題を50分で解答し、各問に対する瞬時の正確な判断をすることが求められています。従って、目録業務の多様な実務経験がない方は、IAAL問題集に掲載した模擬問題の練習だけでは、試験合格は困難です(模擬問題の学習・暗記で、実務能力の有無を判定している訳ではありません)。

IAAL認定試験の受験に向けて、各種の業務知識の基礎固めをするには、「NACSIS-CAT/ILLセルフラーニング教材」を活用した学習が有効です。さらに、図書館法の「図書館に関する科目」の最新教科書を熟読することは、目録法、分類法、レファレンス資料の基礎知識の確認に最適です(IAAL問題集の第1章の注・引用文献の37)38)39)参照)。「情報サービス－文献提供」の学習では、IAAL問題集の資料①の出題枠組みを踏まえながら、出題対象の凡例、マニュアルを参照し、基礎知識を確認して下さい。

IAAL問題集は、定期的に改訂し、樹村房から刊行します。IAAL問題集に関する最新情報は、随時、IAALのWebページに掲載しますので、どうぞご覧下さい。

[参考文献]

*IAAL認定試験問題集編集委員会編、IAAL大学図書館業務実務能力認定試験問題集：専門的図書館員をめざす人へ、2014年版、樹村房、2013.10、161p.

大学図書館員の社会的役割と 専門性を高めることの意味

東北大学
附属図書館
米澤 誠

1. 大学図書館員の社会的役割

私もながら、情報リテラシー教育の課題に関わっているが、大学図書館員の重要な社会的役割の一つは「大学生の生涯学習力を育成すること」であると考えはじめている。

ここでいう生涯学習力とは、大学を卒業後も自ら図書館などで学び、それを仕事や社会に還元することができる力のことである。この力があれば、いままで経験のない新たな課題に立ち会ったときも、自ら学習して解決方法を見出すことができるのである。

いわゆる資本主義社会では、学校で学んだ知識でなんとか対応出来ていたのが、社会変動の激しい知識社会・ポスト資本主義社会では、それだけでは通用しなくなる場面が多くなるといわれている。それを解決するためには、大学卒業後も継続して学習する能力が必要なのである。そのような状況について、ドラッカーは次のように述べている。

「しかしこれからは、基礎教育に加え、方法に係わる知識、いままでは学校で教えようとさえしなかったものが必要になる。特に知識社会においては、継続学習の方法を身につけておかなければならない。内容そのものよりも継続学習の能力や意欲のほうが大切である。ポスト資本主義社会では、継続学習が欠かせない。学習の習慣が不可欠である」(P.F.ドラッカー『ポスト資本主義社会』)

私が冒頭に述べた生涯学習力とは、ここでドラッカーのいう継続学習の能力や意欲と同義のものであろう。大学生のうちにこの力を育成する手助けをすることが、大学図書館員の大きな役割であると思っているのである。

2. 生涯学習力とその基礎となるスキル

それではこの生涯学習力とは、何なのであろうか。それは、いわゆる情報リテラシーと呼ばれるものであり、またそれを仕事や社会に還元しようとする力である。適切な情報源を選択し、信頼性のある情報を探索し、適正な情報を取得し、自分なりに考察の上、仕事や社会に効果的に応用すること、この一連の能力が生涯学習力なのである。

私自身の例をあげれば、レポート作成法の能力を上げ

て、大学生に指導できるようになるため、レポート・論文の書き方の書籍は数十冊読みこなし。また、図書館のフロアプランニングや管理運営の能力を上げるために、建築設計やファシリティマネジメントの基本書籍で知見を深めた。そのようにして自己研鑽することにより、仕事や社会に還元する力を身につけることができるのである。単なる知識の習得にとどまらない、学びと実践の力ともいえる。

生涯学習力の育成を支援するためには、図書館員自身がその能力を身につけておかなければならない。自身が理解し会得していない能力を、他者に伝えることはできないからである。

そのためにはまず、生涯学習力の基礎となるスキルを身につけておきたい。具体的には、先に述べたように「適切な情報源を選択し、信頼性のある情報を探索し、適正な情報を取得し、自分なりに考察の上、効果的に応用する」力である。すなわち、情報探索のスキルと情報評価のスキル、そしてそれを表現するスキルが必要なのである。

これらの情報リテラシーに関するスキルのうち、現在IAALの認定試験で対応しているのが、「情報サービス文献提供」と「総合目録－図書／雑誌」の範囲である。情報サービスに関する知識はまさに情報探索と評価のスキル、そして総合目録に関する知識は情報探索のもっとも基本となるスキルなのである。

3. スキルアップの手段としての認定試験

それでは、どのようにしてそれらのスキルを、高めることができるのであろうか。まず想定されるのは、これらのスキルに関する組織的な講習会や研修会であろう。近年、このような講習会・研修会の機会は多くなっていると思うが、時間的・地理的制約により受講できない場合も多々ある。一方、書籍を読解することでの自己研鑽や、日常的な業務の中でのスキル取得も可能であるが、自律的な動機付けや上司や同僚の支援が求められる点において、なかなか容易ではない面がある。また、スキルの到達点があきらかではないことも、問題の一つである。

これに対する解決策として、能力認定の試験制度というものがある。このスキル取得に有効に機能する。一般に社会制度としての試験は、①一定の知識の学習を前提とし、②その習得の水準を筆記試験で評価し、③それにより学

習者を動機づけてきたものである。そしてまた、④その結果に基づいて能力の高いものを選抜し、⑤一定の資格ないし地位を与えるとされる。

試験制度の起源といわれる中国の科挙では、試験による評価の客観性、競争と選抜、それに基づく地位付与が重要な特徴となっていた。一方この制度がヨーロッパに伝搬したときは、官僚任用制よりもまず、学校教育の領域で生徒を動機付け、教育・学習効果を高める手段として導入されたという。

4. IAAL 認定試験の意義

IAALの実務能力認定試験が現れるまで、現職の大学図書館員の能力を高め、保証するための試験制度は存在しなかった。図書館員はもっぱら自主的な研鑽に励むか、研修などに参加することで満足するしかなかったのである。そして取得したスキルの到達点に関しては、客観的な評価指標がなかった。

私たちが考えたIAALの認定試験は、そういった状況を打開するためのものであり、個々の大学図書館員のスキル向上、ひいては大学図書館界全体の改善を目指すものであると考えていただきたい。そして、現職の図書館員に対するこのスキル認定制度を定着させ、図書館職員のスキルを内外に可視化することで、将来的には図書館職員の地位向上にも結び付けたいと考えている。

小西和信氏が『試験問題集』の「まえがき」で述べているように、「大学図書館の置かれた状況が厳しければ厳しいほど、そこで働く図書館職員に高い能力、専門性が求められているということなのです。いわゆる少数精鋭です。私たちは、不断に自己の知識、技術・能力を高めていく努力をしなければならない」のである。

こうして自己の知識、技術・能力を高めることが、自分自身の生涯学習力を高めるとともに、大学生の生涯学習力を育成することにつながるのだと私は信じている。大学図書館員の社会的役割を考えつつ、私自身もこの課題に志高く取り組んでいきたいと思う。

認定試験の活かし方

図書館職員としてのスキルアップと認定試験

茨城大学図書館農学部分館

根田 剛彦 井上 知永理

み さんの図書館で目録業務を担当されている職員はどなたですか？職場によっては、長年目録業務を担当している方もいらっしゃるでしょうし、現在は目録業務から離れて、資料選択や支払、Webページ管理、ILLなどの担当者の方もいらっしゃると思います。

図書館の業務は多岐にわたります。日々の業務の中で、やらなければならないこと、覚えなければならないことはたくさんありますが、それでも目録についての知識は、図書館職員として最低限もっておかなくてはならないものだと感じます。しかし、目録とはなかなかややこしく、「ずばり目録業務に従事している職員」以外にとっては、継続的に勉強したり、自分の知識が正しいかどうかを確認したりすることは容易ではありません。

そこで今回は、図書館職員のスキルアップとして、現在、茨城大学図書館農学部分館で職員が実践していることを書こうと思います。

はじめに、私たちが勤務する茨城大学図書館についてご紹介しましょう。

茨城大学図書館には、本館（水戸）、工学部分館（日立）、農学部分館（阿見）の3つの図書館があります。蔵書冊数は、3館あわせておよそ100万冊、職員は専任職員と臨時職員をあわせて20数名が働いています。

私たちの現在の勤務地である農学部分館は、農学部を有する阿見キャンパスの中にあります。蔵書冊数は、農学系の資料を中心に約10万冊、職員は専任職員2名、非常勤職員1名、そして学生アルバイトが6名のとても小さな図書館です。

図書館の規模が小さいからといって、サービスの質を落とすわけにはいきません。所蔵資料数と職員数がたとえ少なくても、利用者にはパブリックサービス、テクニカルサービスの両方を責任をもって提供していきたいと考えています。それでは、どのようにその質を確保すればよいのでしょうか？自分たちの知識の確認はどのようにおこなえばよいのでしょうか？その答えのひとつが、IAAL大学図書館業務実務能力認定試験の受験でした。

茨城大学図書館農学部分館では、昨年専任職員2名がこの試験にチャレンジしています。最も重要なことは、この試験の合格/不合格よりも、試験で満足のいく成績を収めるために、日頃から自学自習を継続しておこ

なうことだと感じています。日常的に「あれっ？」と思ったら『目録システムコーディングマニュアル』を確認することはもちろん、国立情報学研究所作成の『目録システム講習会テキスト（図書編、雑誌編）』で目録の基礎を復習し、『IAAL大学図書館業務実務能力認定試験問題集 2012年版』（現在は、2014年版が最新版）で自分の知識が正確かどうかを確認しています。日々の自己研鑽は、図書館業務を正確におこない、質の高いサービスを提供するために重要なことですし、結果的には、おかげさまで2人とも「総合目録－図書初級」「総合目録－雑誌初級」に合格することができました。次は、「総合目録－図書中級」「総合目録－雑誌中級」や「情報サービス－文献提供」にも挑戦したいと考えています。

試験というきっかけがあると日頃の自学自習の励みにもなりますし、職場の中に切磋琢磨できる仲間がいれば、楽しく(!?) 自己研鑽をすることもできるでしょう。みなさんも、図書館職員のスキルアップとして、また自身の知識の確認として、試験を受けてみてはいかがでしょうか。日々の学習は、必ずや図書館サービスと皆さん自身を豊かにしてくれると思います。



茨城大学図書館農学部分館

図書館サービスに係るクオリティの維持・向上に向けて

株式会社明大サポート 営業部業務サポート課長
三吉 寛

当社は、学校法人明治大学及び学校法人中野学園による出資会社で、福利・厚生事業（書店・売店・食堂の運営管理、保険、旅行等）や学内外のアウトソーシング事業（図書館、生涯学習講座運営、施設運営管理、学会などのイベント手配等）の他、人材派遣事業、就職支援事業など、様々な事業を展開している。

図書館業務の受託状況

当社は、2001年4月より明治大学図書館の開館業務を受託している。当初は、中央図書館のインフォメーションカウンターと学生による返本・書架整理業務のみというごく小規模なものであったが、2003年4月以降は全キャンパス図書館の開館業務全般にまで拡大され、現在では、レファレンス業務や情報リテラシーに係る業務にも携わっている。また、2014年4月からは、他大学図書館の開館業務も受託する予定である。

資料整理に係る業務では、図書目録のデータ整備業務（2003年4月～2008年3月）、雑誌整理業務（2008年4月～）の受託実績がある。

認定試験の活用

当社では、現場責任者を含む18名のスタッフが、2009年5月に実施された第1回大学図書館業務実務能力認定試験「総合目録－図書初級」を受験した。これは、社内研修に活用できると考えたことがきっかけであった。

開館業務受託に際しては、サービスの継続性を担保するという観点から、明治大学の嘱託職員であったスタッフを当社に転籍させるという手法を採った。当初は、従来どおりの先輩（転籍者）から後輩へのOJT研修に頼り、会社としてのスタッフ研修は実施していなかった。目録作成能力は、より効率的なOPAC検索及び検索方法の案内、貸出・返却時のデータ確認など、利用者サービス部門における様々な業務に活用され得る能力であり、スタッフにその知識を身につけさせ、「利用者サービスの質」の維持・向上を図ることは、受託業者としての責務である。IAAL関係者の方から認定試験をご紹介いただいたのは、そうした「責務」を改めて認識し、目録研修実施に向けて内容検討等を行っていた頃であった。



当社がスタッフに認定試験を受けさせた目的は、スタッフの現状（レベル）を把握し、それを研修内容に反映させることであった。18名中5名合格という想像どおりの結果ではあったが、何が理解できていないのかを把握するという所期の目的は達成できた。この結果を踏まえ、社内研修においては、座学（1日の集中講義）受講後、実践課題（添削）に取り組ませることとした。実践課題については、徐々にレベルを高くし、少しずつ取り組むことで、自身の理解度を確認しながら次のレベルに進めるよう工夫した。カウンター業務に従事しながら、「カタログ」と呼べるほどのスタッフが育ちつつある現状に鑑みると、認定試験の受験は、当社にとって非常に意義のあるものであった。

さらなる活用に向けて

今後は、研修成果の評価及び研修内容の改善に活用すべく、研修受講者に受験を勧めていきたい。また、採用・考課時の一評価基準とすることについても検討したいと考えている。

認定試験の活かし方

認定試験で高めた図書館員のステージ

LCO株式会社 ライブラリープランナー
千邑淳子&LCOクルー

2013年11月に実施されたIAAL大学図書館業務実務能力認定試験「情報サービス-文献提供」をクルー全員で受験した。「全員で受験」を基本目標とした。

私達は閲覧系業務委託クルーとして、学生数約12,000名の総合大学の図書館で、利用者登録、資料貸出・返却・予約・督促、レファレンス、ILL、視聴覚センター運営、利用教育、館内広報などの閲覧業務と雑誌整理業務を行っている。図書館経験年数1年未満から10年以上、年齢も20代前半から50代と幅広い経験とスキルを持ったメンバーである。

2009年5月以降、実施されているIAAL大学図書館業務実務能力認定試験「総合目録-図書初級」は過去にも有志が受験している。合格者はその後、自信を持って業務にあたっている。その中のひとりである20代の元クルーは、経験年数が浅いが、現在新たな勤務先である大学図書館の業務委託リーダーとして活躍中である。新しいステージの獲得である。

認定試験への取組と効果

さて、今回、「全員で受験」したことは組織にも個人にも大きな変化を齎した。

まず、受験準備期間にはクルーに結束力が生まれたことである。普段からかなりチームワークがある組織だと自負していたが、受験日が近づくにつれ、休憩時間、また業務中でもお互いの情報交換が自然発生していた。常日頃、定型化してしまっている各業務への刺激になったのは言うまでもない。互いの業務への理解を深めることとなった。その後、互いの業務についての情報交換が活発になり、「NACSIS-CAT/ILLセルフラーニング教材」『IAAL大学図書館業務実務能力認定試験問題集』に取り組みが強化され、IAAL講師の講習も受講するなど、受験に備えた。

もうひとつの変化は受験後の意識の変化である。誰もが漫然と前にある仕事をしてはならないと気が付いたということだ。情報を常に掴みに行く姿勢を持つことの大切さを痛感した。受験後、NDLCurrent Awareness、IAALニュースレター、他クルーの出張・研修報告などを意識的に閲覧するようになった。

いつもアンテナを張り、情報のアップデートを図る、

担当業務以外にも目を向ける、など自己研鑽を積んでいるかどうか問われ、また、そのような姿勢が大学図書館で情報サービスを行う者の基本姿勢であることに気づかされた。

クルーの声

次に、代表的なクルーの声を挙げさせていただく。実務経験の浅いクルーは「実務だけでは毎日流されてしまうが知識を整頓するきっかけとなり、点と点がつながるようになった。」と、実務経験10年に近いクルーは「普段から担当業務だけでなく図書館に関わることを全体に目を向けていかねばと思った。」と言っている。

もし、受験を迷っている方がいるのなら、迷わず、「受験してみたら。」とお薦めする。合格すれば自信となり、不合格となっても、今まで以上に意識を持って、業務に取り組む自分自身の変化に気付くことができるだろう。

認定試験への期待

もちろん、このIAAL認定試験合格は大学図書館で働く司書のゴールではない。「教育」「人材育成」「研究サポート」を期待される大学図書館。そこで働く図書館員は高い図書館業務のスキルを持ち、特異性を持った各大学図書館でそれらの期待に応えることができなければならない。その現状が「業務委託ありき」で良いはずがないというのが当社の考えでもある。

この認定試験が日本の大学図書館と働く図書館員（業務委託スタッフ・派遣スタッフ含む）のステージを高め、業務委託に代わる新しい業務システムの扉を開けてくれるものと信じたい。

今後は大学図書館で働く実務者が誇れるステータスとして、さらにはその認定者に活躍する場を与えることができる資格として、より広く認知されていくことを願ってやまない。

筑波大学
情報学群 知識情報・図書館学類 4年

橋本 昌枝さん

私は、大学図書館の司書を目指して、筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類で勉強している大学4年生です。昨年夏、授業の一環のインターンシップで、地元の国立大学附属図書館にお世話になりました。この時、大学図書館の仕事に強い魅力を感じ、大学図書館職員を志望するようになりました。インターンシップでは、NACSIS-CAT/ILLセルフラーニング教材で徹底的に学習した上で、NACSIS-CATの目録の登録・編集、NACSIS-ILLの依頼等を実際に体験し、目録業務の重要さと面白さに気づきました。そこで、自分のスキルアップと勉強を兼ねて、学類の進路指導で推奨されていたIAAL大学図書館業務実務能力認定試験「総合目録－図書初級」を受験しよう決めました。

試験対策として、最初に、私はIAALが公開している試験概要の出題範囲に挙げられた出典・参考教材のすべてに目を通しました。試験勉強で

は、総合目録の概要を押さえてから、レコード部分や入力規則等の細かい部分を把握するようにしました。私は、試験対策を始める前に、インターンシップでNACSIS-CAT/ILLセルフラーニング教材をすべて学習し終えていたので、内容的に重複する部分も多く、総合目録に関して簡単に理解できる部分もありました。IAAL認定試験の受験勉強で、何から初めたら良いかわからない方は、NACSIS-CAT/ILLセルフラーニング教材をひと通り行うことをおすすめします。

このように、ひと通り試験範囲の内容を理解したところで、私は『IAAL大学図書館業務実務能力認定試験問題集 2012年版』（現在、2014年版が刊行）にとりかかりました。ひと通り問題を解いた後は、間違えた問題や勘で解いた問題の解説にチェックを入れて、解説を繰り返し読むことに力を入れました。IAAL問題集の解説は非常に充実しており、その解答の根拠がどの出典・参考教材に書いてあるかも記載されているため、すべての解説を熟読するのも良いのではないかと思います。

今後は、「総合目録－雑誌初級」にも挑戦して、スキルアップに努めたいと考えています。

合格体験記

「総合目録－図書初級」編

九州女子大学・短期大学附属図書館

坂田 幸代さん

私は九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館で嘱託職員として勤務しています。本学では主に図書目録業務を担当しています。今回IAAL認定試験「総合目録－図書初級」第7回が九州でも開催されると知り、受験することにしました。

試験対策として、『IAAL大学図書館業務実務能力認定試験問題集』を使って勉強しました。実際に業務に従事していても意外と見落としているポイントもあり、間違えた問題は、『コーディングマニュアル』や『目録情報の基準』を見直して何度も復習を繰り返しました。

本学は大規模大学に比べ資料の受入・整理件数はあまり多くありません。それでも合格することができたのは、「北部地区研究会目録講習会」（中級コース）受講のおかげではないかと思っています。本講習会は、福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会目録講習小委員会により毎年企画・

開催されています。平成25年度はグループワークを交えた実習形式で行われました。日頃扱うことの少ない洋書等の実例を経験でき、また他の参加者や講師との交流により、目録業務で生じた疑問を解決するよい機会にもなりました。なお講習会受講の前に、事前学習としてNIIの「NACSIS-CAT/ILLセルフラーニング教材」を受講する必要がありますが、これが丁度よい復習となり、総合目録の知識の定着につながったと実感しています。

試験当日の会場は緊張感に満ち溢れていました。直前まで黙々と勉強する受験者と共に私も自然と集中することができましたが試験中とはとにかく時間との戦いになりました。問題数が多く、判断が少し遅れるだけで時間のロスにつながります。日々の業務においてもスピーディな判断が求められているのだと改めて感じました。また受験結果に加え詳細な採点結果を頂けたので、自分の苦手分野を把握することができ、大変参考になりました。今後もこの認定試験を九州でも開催して頂ける事を期待しつつ、さらなるスキルアップを目指していきたいと思っています。

成蹊大学

児玉 千尋さん

私は現在、成蹊大学図書館で契約職員として、カウンター、目録、レファレンス、ILL、展示、ガイダンス等幅広い業務を行っています。前職では洋書のNIIデータの作成を専門に行っていました。職場の回覧資料でIAAL認定試験を知り、キャリアアップのために「総合目録-図書初級」「総合目録-図書中級」「情報サービス-文献提供」の3科目を受験し、全て合格することができました。

受験に際し参考にしたのは、IAALの問題集、講習会テキスト、セルフラーニング教材、コーディングマニュアル、目録情報の基準、ニュースレターの過去問解説等です。またニュースレターの「カタログの独り言」も有用な豆知識なので毎回チェックしています。

試験に関しては「総合目録-図書」は中級はもちろん、初級といえども驚くほど詳細な知識を問うもので、目録作成の際に自分では必要としない

システム上の知識、検索用インデックスの切出し方、正規化処理など、受験しなければ知らずに終わっていたと思われる内容でした。

「情報サービス-文献提供」では、初回に受験したので問題集や過去問がなく苦勞しました。ILLのシステムの設問よりも、一般的なレファレンスブックの知識を問う設問の割合が予想外に多く、どうにか合格することはできましたが知識のなさを痛感いたしました。

司書資格は1度取ってしまうと、その後再勉強の機会がないのですが、認定試験のお陰でモチベーションも上がり、新しい知識を得ることができました。

最後に2点、IAALさんへのリクエストがあります。まず1点目は、中級など試験の回数を増やして欲しいです。開催回数を増やせないのであれば、現状の1日に2種類の試験の時間をずらして両方受けられるようにしていただけるとありがたいです。もう1点は、試験後に全問解答を公表していただけると、復習などの確認ができ非常に学習の効率が良くなると思います。

合格体験記

「情報サービス-文献提供」編

長崎外国語大学

羽田 有花さん

IAALニュースレターで大学図書館業務実務能力認定試験関連の記事を読むたびに「いつかは受けてみたい」と思いつづけたまま2年半が経ってしまっていました。しかし、昨年11月から、この大学図書館業務実務能力認定試験が北九州でも実施されることを知り、受験を決意しました。大学図書館員としての自分のスキルを確認する時期としても、ちょうど良いタイミングのように感じました。

私の勤める長崎外国語大学は小規模大学で、図書館スタッフも数名のため、1人で何役もの業務をこなさなければならないのが実情です。3年間、図書目録や雑誌目録管理、ILL業務、レファレンスサービス等、経験は浅いながら日々さまざまな業務を行ってきました。そのため、「試すスキルを選ぶ」と考えたときに、実施される試験科目の「総合目録-図書初級」と「情報サービス-文献提供」のどちらを選択するか迷いました。しかし、利用

者サービスに直結する方を優先しようと考え、今回は「情報サービス-文献提供」を受験しました。

この科目は第2回目ということもあり、試験勉強には苦勞しました。試験用の問題集や、出題範囲に関連する資料を読み込みました。ただの試験勉強だけで終わってしまっただけでは意味がないので、常に学習したことを実務で使えるよう意識することも心がけました。CiNiiやNDLのデータベースを利用する際に、良く利用する機能以外の部分にも注目する、新しく学んだデータベースを積極的に利用する等、日頃行っているサービスのスキルアップの機会ととらえるようにしました。また、常にお互いの疑問やレファレンス内容を共有し、ともに問題解決に取り組める図書館スタッフ同士の連携も、良い試験結果につながったのではないかと思います。

今後もチームワークと情報に対する敏感さを忘れず、利用者により良いサービスが出来るよう、文献提供のスキルに磨きをかけていきたいと思っています。

カタロガー の 独り言

「目録ドイツ語の基礎知識」(続)

もう一つやっかいなドイツ語の特徴として、名詞の格変化があります。(ロシア語やラテン語、ギリシア語などにもあるのですが、英語やフランス語にはないものですのでなじみのない方も多いと思います。)

名詞の格変化とは、文章における役割によってその単語の形が変わることで、特に困るのは人名や団体名などの固有名詞も変化するという事です。例えば責任表示に“herausgegeben vom Deutschen Anwaltverein”とある場合、前置詞vonの後に続く形容詞や名詞は3格になるため、“der Deutscher”が“dem Deutschen”と変化していて、さらに前置詞vonと冠詞demが一つに縮約されて“vom”となっているのです。

責任表示として記録する場合は変化形のまま転記すればよいのですが、著者名典拠レコードの標目やALフィールドに記録する場合には主格形にしなければなりません。格変化そのものについては文法書をご覧頂くとして、表示されているまを標目として記録するとは限らないという事に注意して頂きたいと思います。

ただし、目録を採る際には無理に自分で主格形に直そうとして文法的にあれこれ考えるよりも、まずはその資料中にその著者等の主格形が表示されていないかを確認するようにしましょう。かく言う筆者は以前、ギリシア人の姓を主格形に直したところ、後になってその人の姓はもともと属格形だという事がわかってあわててデータを修正した経験があります。タイトルページ裏の著作権表示や、序文の最後にある署名、あるいは巻末の参考文献一覧の中の著者名として、主格形が表示されていることが多々あります。また、背にはスペースがないため人名だけが表示されていて、そのため格変化もしていないという事もあります。

ところで、前回触れたようにドイツ語には長い複合語が多くあります。そして複合語を並べるとき、“Privat- und Wirtschaftsrecht”のように表記されている事があります。これは“Privatrecht”と“Wirtschaftsrecht”という二つの単語の後半を重ねて表示しているものです。ですから“Privat-”と“und”の間にはスペースが必要でし、“Privat”だけで辞書を引いても適切な訳語は得られませんので注意しましょう。

また、“unveränderte Auflage”という表記をよく目にします。“Auflage”は「版」という意味ですが、日本語の版と同様に、目録という版と刷の両方の可能性がありますので注意が必要です。その前にある“unveränderte”は「変わらない」という意味です。つまり、“unveränderte Auflage”は「変わらない版」という意味になります。変わらないのであれば、版という語が使われていても別書誌を作成する根拠にはなりませんので、目録上は刷として扱う事になります。

英語と同じだろうと高を括っていると思わぬ失敗をしますが、仕組みが分かっしまえば目録を採る事自体は決して難しい言語ではありませんので、簡単な入門書に目を通しておく事をお勧めします。

(IAAL事務局：K生)

IAAL 大学図書館業務実務能力認定試験 (IAAL 認定試験)



2014 春次回開催予定 2014年 4月27日(日)

- ▶ 「総合目録-図書初級」 第8回
- ▶ 「総合目録-雑誌中級」 第1回

NEW

- ① 東京会場 (機械振興会館)
- ② 大阪会場 (公益社団法人国民会館)

2014 秋開催予定 2014年 11月8日(日)

- ▶ 「総合目録-図書中級」 第4回
- ▶ 「情報サービス-文献提供」 第3回

- ① 東京会場 (機械振興会館)
- ② 大阪会場 (公益社団法人国民会館)

*詳細はホームページをご覧ください。

八洲学園大学公開講座案内

「大学図書館業務の基礎知識 — IAAL 認定試験総合目録初級受験対策講座」の再放送が、4月1日から4月30日までオンデマンド配信されます。

申し込みは、<http://www.yashima.ac.jp/univ/extension/about.html>から

ニュースレター 10号及び13号の訂正とお詫び

ニュースレター 10号 P6と P7, 13号 P8の記述に間違いがございました。謹んでお詫び申し上げますとともに、ここに訂正申し上げます。

【ニュースレター 10号 (P6) と 13号 (P8)】

●全体の得点分布 (第1回-第3回) 合格ライン120点

第2回		
	誤	正
最高点	137点	139点
平均点	113.4点	114.6点
得点中央点	114点	115点
標準偏差	13.8	14.5

●問題の領域別正解率

第2回		
	誤	正
Ⅲ総合・和図書	81.0%	87.7%

【ニュースレター 10号 (P7 上部表)】

図書中級 第2回	
合格者数	24名 (合格率41.4%)

『IAAL 大学図書館業務実務能力認定試験問題集2014年版』の訂正とお詫び

『IAAL 認定試験問題集 2014年版』に誤りがありました。一部、既にシール等で修正されている問題集もあります。謹んでお詫び申し上げます。詳細は、当機構のHPをご確認ください。→ <http://www.iaal.jp/index.html>

ホームページリニューアルのお知らせ

2014年2月26日、ホームページのデザインを一新しました。

事務所移転のお知らせ

事務所移転に伴い住所・電話番号が5月12日(月)より変更となります。
 新住所 〒171-0021 東京都豊島区西池袋5-14-8 東海池袋ビル 6階
 電話 03-5927-8288 FAX 03-5927-8287
 メール info@iaal.jp (変更はありません)

> COVER story



明治大学和泉図書館の開放的な階段。高みを目指す図書館職員の行く先を示しているかのようです。